

ふりがな 氏名	まつだ れいこ 松田 麗子	職名	講師
取得学位	修士(看護学)	学会での受賞歴	
主な担当科目	成人看護学援助論Ⅱ、成人看護学実習、看護過程		
所属学会	日本集中治療医学会、日本クリティカルケア看護学会、日本救急看護学会、日本看護倫理学会、日本看護科学学会、日本看護研究学会、日本臨床倫理学会、日本教育学看護学会、日本精神保健看護学会、日本集団精神療法学会、日本協同教育学会		

◆ 教育業績

事項	実施年月(日)	概要
<p>1. 教育方法の実践例</p> <p>協同学習</p> <p>PBL</p> <p>技法：シンク・ペア・シェア</p> <p>技法：ラウンド・ロビン</p> <p>技法：特派員</p> <p>LTD</p> <p>シミュレーション学習</p>	<p>平成 30 年 4 月より令 和 2 年 3 月 まで</p>	<p>活動性の高い授業づくりを目的とした協同学習の考え方を基盤として、学生が主体的にグループで学習を行うことが期待できる PBL を実施した。生命健康科学部保健看護学科 2 年生に対し、成人急性期看護学 I 「プレホスピタル」の授業で PBL を活用した。提示された課題に対し、学生自身がある一定の期間は個々で取り組み、その後グループを越えて話し合い、課題の達成を計画したプロジェクトを遂行するという学習法に携わった。</p> <p>生命健康科学部保健看護学科 4 年生に対し、統合看護臨地実習の学内実習時では、協同学習の技法を使用した。</p> <p>シンク・ペア・シェアは、授業中に隣同士の学生で使用し、クラス全体で話し合いの場を持った。</p> <p>ラウンド・ロビンは、小グループにおいて個々のアイデアを出し合い、クラス全体で話し合いの場を持った。</p> <p>特派員は、小グループの中でそれぞれの役割に分かれ、ある一定の時間他のグループの意見を聞き、自分のグループに戻って情報を共有し、話し合いを深めた。</p> <p>生命健康科学部保健看護学科 3 年生に対し、急性期看護学実習において、学内で学んだ基礎的知識を統合させることや、人との触れ合いをとおして対人関係を学び、看護の基盤となる能力を修得するために、話し合いをとおして学びを深める LTD を基軸にした実習指導を行った。</p> <p>生命健康科学部保健看護学科 3 年生に対し、急性期看護学実習の学内実習において、術後患者の異常の発見に関するシナリオを作成し、高機能シミュレータを用いた技術演習を行った。</p>

事 項	実 施 年月(日)	概 要
Glexa を用いた小テストの実施	令和2年4月より現在まで	健康科学部看護学科2年生に対し、成人看護援助論Ⅱ（急性期）において、知識の定着と確認を目的としたオンデマンドによる「確認テスト」を実施した。
作成した動画のオンデマンドの実施	令和2年9月	健康科学部看護学科2年生に対し、成人看護援助論Ⅱ（急性期）において、学生が授業外にオンデマンドで視聴することができるよう、術直後患者を模したシミュレータを作成し、「術直後患者の観察」の動画を撮影し配信を行った。
シミュレーション学習	令和2年9月より現在まで	健康科学部看護学科2年生に対し、成人看護援助論Ⅱ（急性期）において、周術期患者の術直後を模した高機能シミュレータを使用し、術後観察の実施とその後のグループディスカッション、デブリーフィングを取り入れた授業を展開した。
タブレット (ipad) を用いたシミュレーション学習	令和4年9月	成人看護援助論Ⅱ（急性期）において、高機能シミュレータを用いて、術直後の観察を実施している。術後観察の手順や方法をプレゼンテーションできるようにipadを用いている。異なる実習室でもグループ発表の共有ができ、学生からは変化のある授業内容と色々な意見を学ぶことができるとの感想を得ている。

◆ 研究業績

区 分	著書・論文・発表テーマ・ 作品・演目などの名称	単 ・ 共	発 行・ 発 表 年月(日)	発行所 / 誌名・巻号 / 学会・展覧会・演奏 会の名称(会場名)	備 考
論 文	Heart rate variability can clarify students' level of stress during nursing simulation.	共	平成30年4月	PLoS ONE 13(4):e0195281.	Natsuki Nakayama, Naoko Arakawa, Harumi Ejiri, <u>Reiko Matsuda</u> , Tsuneko Makino.
	看護基礎教育における中/高忠実度シミュレータを使用した教育に関する研究の動向	共	令和元年7月	看護科学研究 vol.17, 37-44	江尻晴美, 荒川尚子, <u>松田麗子</u> , 中山奈津紀, 牧野典子
学会発表	現役フライトナースの講義による学生のプレホスピタルに関するイメージ変化-講義後のアンケート調査から-	共	平成30年8月	第28回 日本看護学教育学会 横浜	<u>松田麗子</u> , 牧野典子
	術後患者を設定したシミュレーション演習における学生の気分及び不安の変化	共	平成30年8月	第44回 日本看護研究学会 熊本	江尻晴美, 中山奈津紀, 荒川尚子, <u>松田麗子</u> , 牧野典子

区 分	著書・論文・発表テーマ・ 作品・演目などの名称	単 ・ 共	発 行・ 発 表 年 月(日)	発行所 / 誌名・巻号 / 学会・展覧会・演奏 会の名称(会場名)	備 考
学会発表	看護大学生におけるグループシミュレーション演習中の心拍変動の検討	共	平成 30 年 12 月	第 38 回 日本看護科学 学会 愛媛	中山奈津紀, 江尻晴美, 荒川尚子, <u>松田麗子</u> , 牧野典子
	術後患者を想定したグループシミュレーション演習に対する学生の気分と観察項目	共	平成 30 年 12 月	第 38 回 日本看護科学 学会 愛媛	荒川尚子, 江尻晴美, 中山奈津紀, <u>松田麗子</u> , 牧野典子
	術後患者を想定したグループシミュレーション演習における観察の傾向と教育支援課題	共	平成 30 年 12 月	39 第回 日本看護科学 学会 愛媛	江尻晴美, 荒川尚子, 中山奈津紀, <u>松田麗子</u> , 牧野典子
	ICU 看護師がグループで語る感情体験	共	平成 30 年 12 月	39 第回 日本看護科学 学会 愛媛	<u>松田麗子</u> , 多喜田恵子
	Talking about emotional experiences at work - Using ICU nurse's focus group interview	共	平成 31 年 1 月	22nd East Asian Forum of Nursing Scholars (EAFONS) 2019 Singapore	<u>Reiko Matsuda</u> , Keiko Takita
	看護基礎教育における術後患者を設定したシミュレーションの方法の違いによる不安得点の比較	共	令和元年 8 月	第 45 回 日本看護学研究学会 大阪	江尻晴美, 荒川尚子, 中山奈津紀, <u>松田麗子</u> , 牧野典子
	手術直後の観察を課題とした個別シミュレーションとグループシミュレーション演習中の心拍変動の比較	共	令和元年 12 月	第 39 回 日本看護科学 学会 金沢	中山奈津紀, 江尻晴美, 荒川尚子, <u>松田麗子</u> , 牧野典子
	術後出血患者を設定したシミュレーションの観察内容の構造とアセスメントの妥当性	共	令和元年 12 月	第 39 回 日本看護科学 学会 金沢	荒川尚子, 江尻晴美, 中山奈津紀, <u>松田麗子</u> , 牧野典子
	看護基礎教育における術後患者を設定したシミュレーション演習:観察・アセスメント内容の検討と記録形式の課題	共	令和 2 年 3 月	第 24 回一般社団法人日本看護研究学会東海地方会学術集会	江尻晴美, 荒川尚子, 中山奈津紀, <u>松田麗子</u> , 牧野典子
	わが国におけるクリティカルケア看護師の Moral Distress -倫理的看護実践の制約に関する文献検討-	共	令和 2 年 3 月	第 47 回 日本集中治療医学会 名古屋	<u>松田麗子</u> , 明石恵子
	わが国におけるクリティカルケア看護師の Moral Distress -質的研究のメタ統合-	共	令和 2 年 6 月	第 16 回日本クリティカルケア看護学会	<u>松田麗子</u> , 明石恵子

区 分	著書・論文・発表テーマ・ 作品・演目などの名称	単 ・ 共	発 行・ 発 表 年 月(日)	発行所 / 誌名・巻号 / 学会・展覧会・演奏 会の名称(会場名)	備 考
学会発表	半構造化面接によって見いだしたわが国におけるクリティカルケア看護師の Moral Distress の様相	共	令和4年 6月	第18回日本クリティカルケア看護学科	<u>松田麗子</u> , 明石恵子
展 覧 会	Discussing emotional experiences at workplace through focus group interviews with ICU nurses		令和元年 12月	NCU アジア拠点港シンポジウム2019 名古屋	<u>松田麗子</u> , 多喜田恵子